

令和6年1月23日

## 第2回 標準型電子カルテ検討技術作業班に関する アンケート調査説明資料

厚生労働省 医政局

特定医薬品開発支援・医療情報担当参事官室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

# 標準型電子カルテの目的

## <目的>

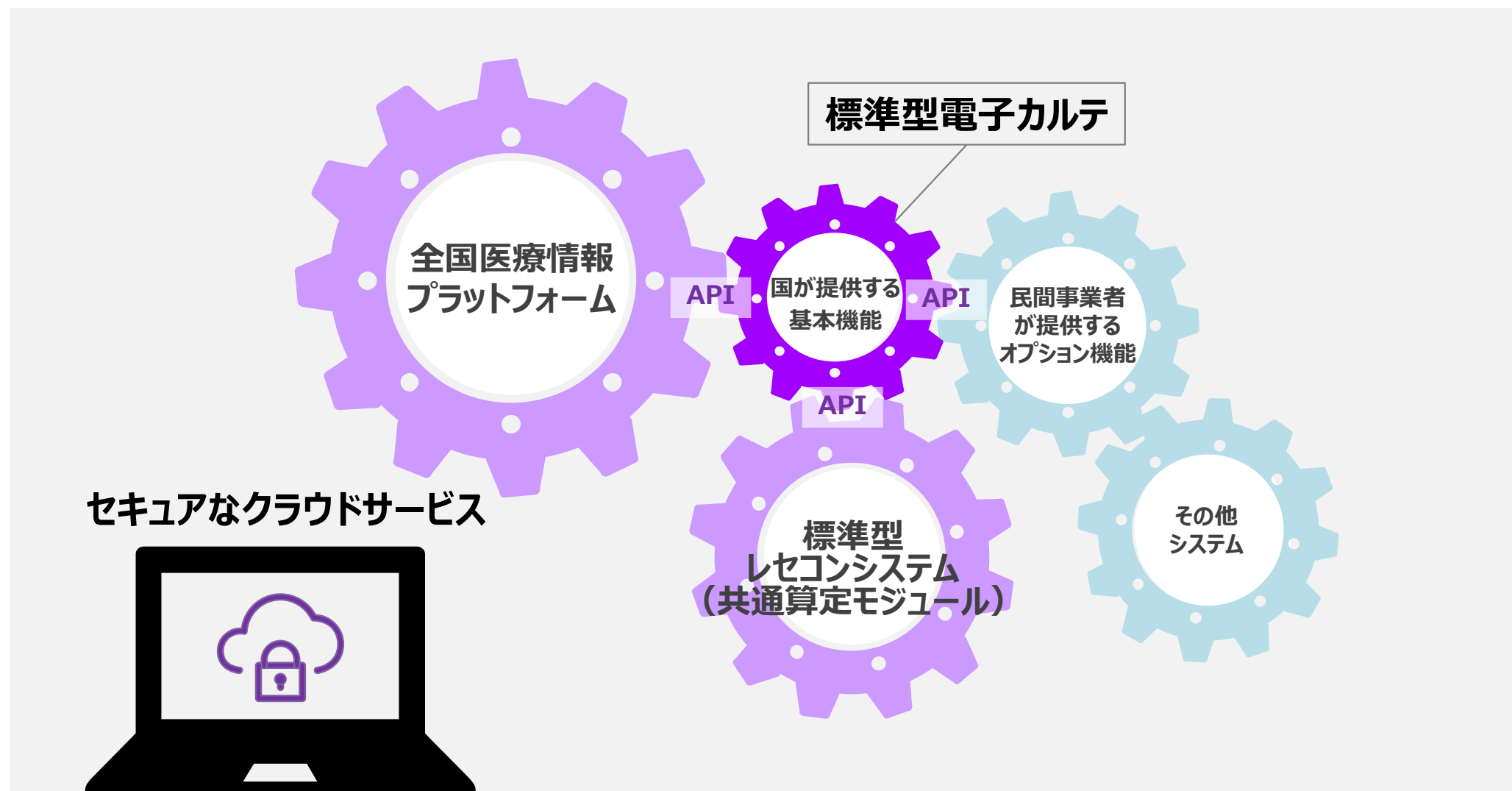
標準型電子カルテの構築にあたっては、

- ① 「切れ目なくより質の高い医療等の効率的な提供」を実現するため、  
電子カルテ情報共有サービスを始めとした医療DXのシステム群（全国医療情報プラットフォーム）につながり、  
情報の共有が可能な電子カルテ  
の構築を目指す
- ② あわせて、「医療機関等の業務効率化」を実現するため、  
民間サービス（システム）との組み合わせが可能な電子カルテ  
の構築を目指す  
こととする。

# システム構成・機能

## 標準型電子カルテのシステム開発のコンセプト(案)

標準規格に準拠したクラウドベースでのシステム構成としたうえで、国が対象施設に共通した必要最小限の基本機能を開発し、民間事業者等が各施設のニーズに応じたオプション機能を提供できるような構成を目指す。



# システム構成・機能

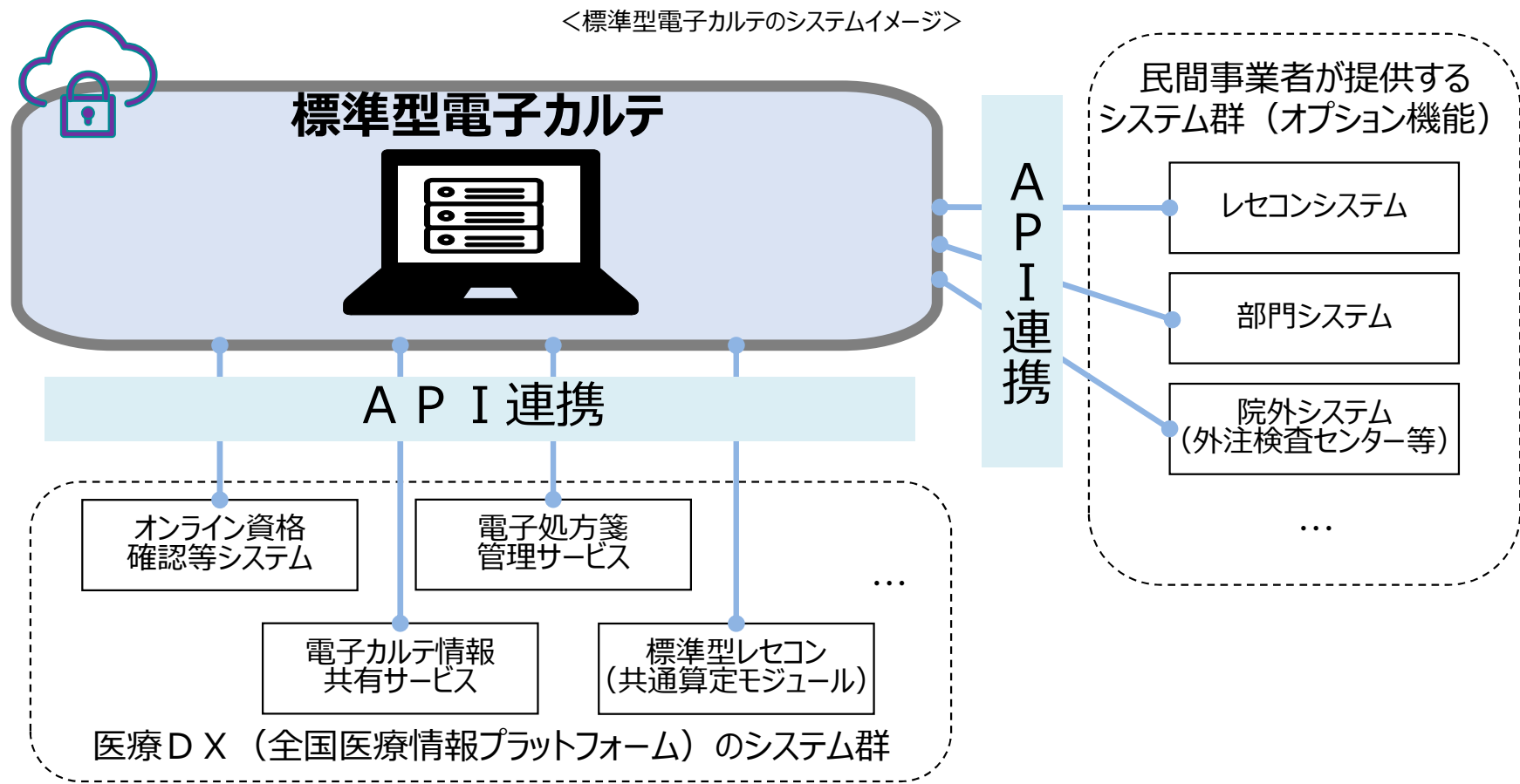
## 標準型電子カルテのシステムイメージ

標準型電子カルテはクラウド上に配置し、医療DX（全国医療情報プラットフォーム）のシステム群や、民間事業者が提供するシステム群（オプション機能）とのAPI連携機能を実装すべく、検討中。

一方で、民間事業者が提供するシステム群は数多く存在するため、API連携機能の実装に当たっては、以下の論点等を踏まえ、その対象範囲や実装方法等を検討する。

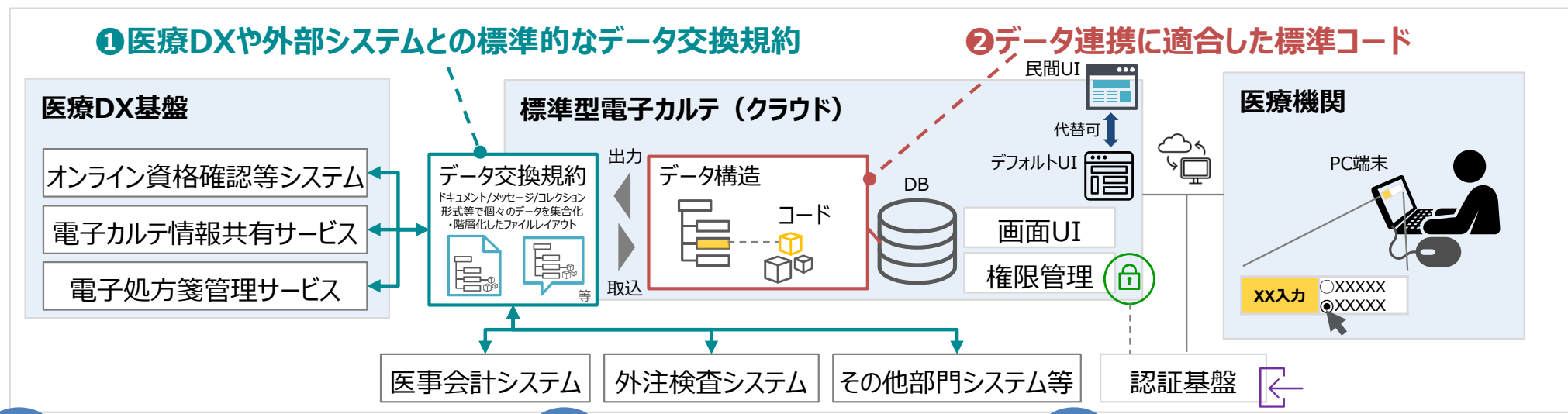
<構築に向けた主な論点>

- ・ システム接続方式：クラウドに配置した標準型電子カルテと部門システム等（オンプレミス）との接続方式
- ・ 標準規格化：部門システム等と接続する上での標準規格化の範囲や既定方法



# 標準型電子カルテの意義と特徴

標準型電子カルテでは、基本方針として、医療DXや外部システムとの標準的なデータ交換規約に準拠し、システム内部でもそれらに適合した標準コードを採用する。様々な外部システムと共通化されたデータ連携ができることに加え、コード入力情報の自動引用による負荷軽減や、コード変換処理等の軽減も可能となり、シンプルなシステムとなる。これにより、電子カルテ未導入医療機関での電子カルテ導入を進めるとともに、標準的なデータ交換規約は、既存電子カルテでも取り入れられるよう公開していく。

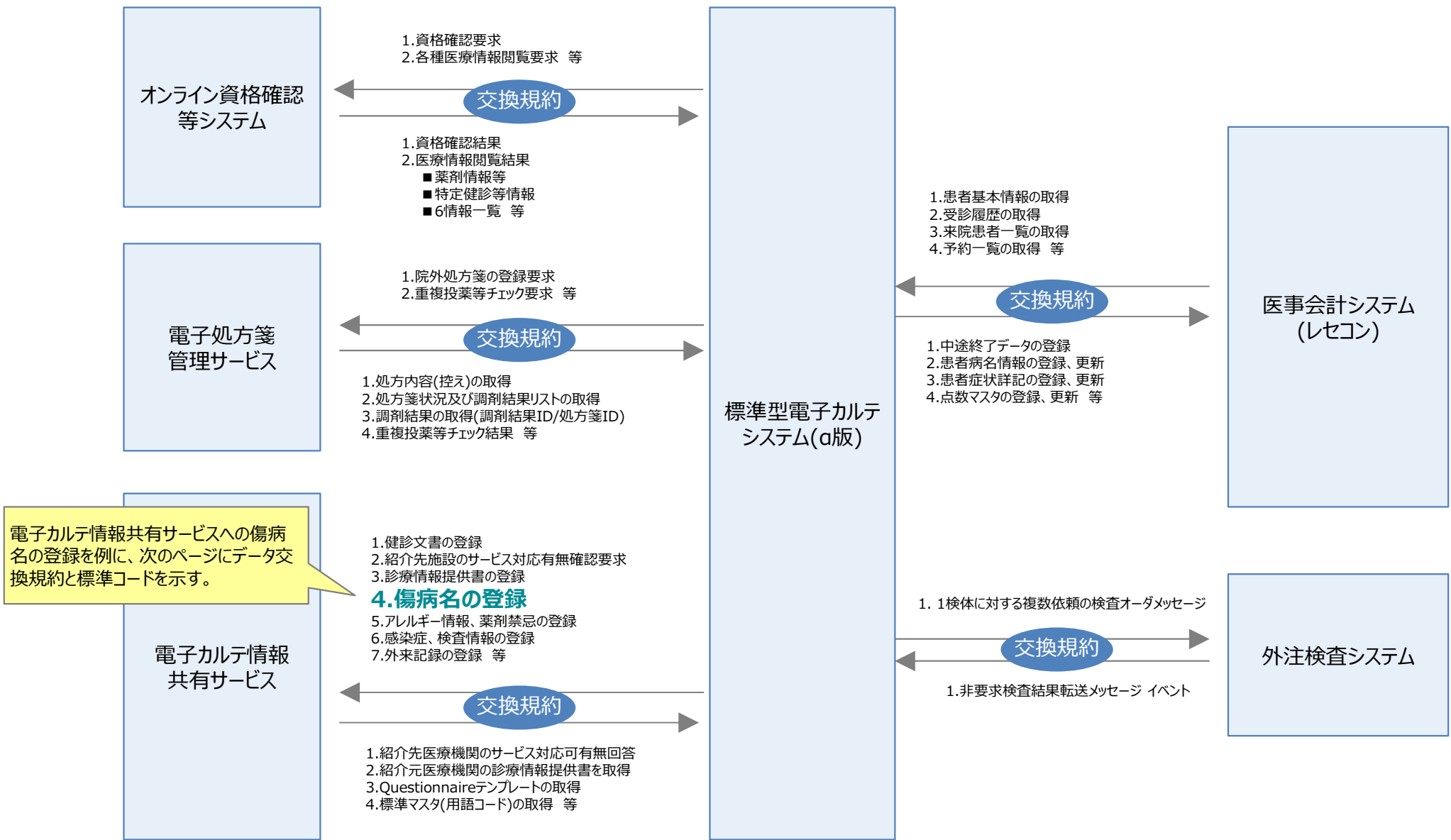


- |  |  |   |
|--|--|---|
| <p><b>特徴1</b></p> <p><b>医療DXを活用した新たな付加価値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 医療DXのサービス（システム）群の利用             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>オンライン資格確認等システム</u>で扱う特定健診等情報やレセプトから抽出された診療/薬剤情報</li> <li>・ <u>電子カルテ情報共有サービス</u>で扱うアレルギー情報や検査情報等の情報</li> <li>・ <u>電子処方箋管理サービス</u>で扱う処方・調剤情報</li> </ul> </li> <li>■ <u>診療情報提供書等を紹介先医療機関に電子的に共有</u></li> <li>■ <u>こうした情報を患者自身がマイナポータル等を用いて確認可能</u></li> </ul> | <p><b>特徴2</b></p> <p><b>標準規格対応による負荷軽減</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>標準型レセコンを見据えた医事会計システムとのシームレスなコスト連携</u></li> <li>■ <u>標準化されたデータ構造・コードマスタ</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>煩雑なコード変換処理(マッピング管理)が不要なシステム間連携</u></li> <li>・ <u>各種文書へのデータ自動引用</u></li> <li>・ <u>独自のローカルコードを排した民間電子カルテシステム移行用のデータ抽出・出力</u></li> </ul> </li> <li>■ <u>定期的に刷新される診療報酬様式等のマスタメンテナンスに係る医療現場負荷軽減</u></li> </ul> | <p><b>特徴3</b></p> <p><b>民間サービス組み合わせによる拡張性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <u>外注検査機関との共通化されたオーダ連携</u></li> <li>■ <u>民間部門システムを介した医療機器データ連携</u></li> <li>■ <u>民間のオプションモジュールとの組み合わせによる機能追加</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療科特化機能</li> <li>・ 通院支援サービス(Web予約等)</li> <li>・ オンライン診療サービス等</li> </ul> </li> <li>■ <u>民間UIへの代替</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>診療科特性や好みから選択できる、民間事業者提供UI製品との組み合わせ活用</u></li> </ul> </li> </ul> |
|--|--|---|

# 標準型電子カルテα版で予定している医療DXや外部システムとの連携範囲

標準型電子カルテ（α版）では、まず以下の外部システム群との標準的なデータ連携を目指す（※）。

※外部システムとの接続は、双方の準備が整い次第実施



# ①医療DXや外部システムとの標準的なデータ交換規約と②データ連携に適合した標準コードの例示

電子カルテ情報共有サービスへの傷病名の登録を例とした、①医療DXや外部システムとの標準的なデータ交換規約と②データ連携に適合した標準コードの考え方を以下に示す。

## ①医療DXや外部システムとの標準的なデータ交換規約

### 電子カルテ情報共有サービスFHIR実装ガイド JP-CLINS(Conditionリソース)

No	大区分	要素Lv1	要素Lv2	型	コード値
1	リソースタイプ	resourceType			"Condition"
2	最終更新日時	meta	lastUpdated	instant	
3	準拠プロフィール	meta	profile[+]	canonical(StructureDefinition)	
4	長期保存フラグ	meta	tag[*]	Coding	
5	未告知フラグ	meta	tag[*]	Coding	
6	参照(Encounter)	contained[+]		Resource(JP_Encounter)	
7	参照(Practitioner)	contained[+]		Resource(JP_Practitioner )	
8	医療機関番号(10桁)	extension[+]		<b>Extension</b>	
9	診療科	extension[+]		<b>Extension</b>	JAMI診療科コード
10	識別ID	identifier[*]		Identifier	
11	臨床的状态ステータス(転帰)	clinicalStatus		CodeableConcept	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ active (存続)</li> <li>■ remission(軽快、寛解)</li> <li>■ inactive (治癒以外での病名の終了)</li> <li>■ resolved (治癒)</li> <li>■ unknown (不明)</li> </ul>
12	診断ステータス	verificationStatus		CodeableConcept	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Unconfirmed(未確認)</li> <li>■ Confirmed(確認済み)</li> <li>■ Refuted(否定された)</li> <li>■ Entered-in-Error(入力エラー)</li> </ul>
13	臨床状態のカテゴリ	category		code	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ problem-list-item (プロブレムリスト)</li> <li>■ encounter-diagnosis (診察時点での診断名)</li> </ul>
14	傷病名コードと名称	code		CodeableConcept	MEDIS標準病名マスター(病名管理コード)
15	症状のある部位・傷病の修飾語	bodySite		CodeableConcept	MEDIS標準病名マスター(修飾語コード)
16	症状を有する患者情報	subject		Reference(JP_Patient )	
17	傷病名情報記録時の受診情報	encounter		Reference (JP_Encounter )	
18	傷病名情報の同定時期(出現時期もしくは確認時期)	(onset)		(dateTime、Age、Period、Range、string) のいずれかの型をとる。	
19	転帰時期	(abatement)		(dateTime、Age、Period、Range、string) のいずれかの型をとる。	
20	傷病名の記録日時	recordedDate		dateTime	
21	傷病名を記録した人	recorder		Reference(JP_Practitioner )	
22	症状の確認(主張)者	asserter		Reference(JP_Patient JP_Practitioner   RelatedPerson )	
23	臨床的ステージ	stage			
24	状態を裏付ける症状や所見	evidence			MEDIS標準病名マスター(病名管理コード)
25	患者状態に関する追加情報	note			

## ②データ連携に適合した標準コードマスタ

### JAMI診療科コード

JAMIコード(2桁)	診療科
01	内科
02	精神科
03	神経科
04	神経内科
05	呼吸器科
...	...
9Z	その他

### HL7コード(CodeSystem: Condition Clinical Status Codes)

HL7コード	臨床的状态ステータス(転帰)
active	存続
remission	軽快、寛解
inactive	治癒以外での病名の終了
resolved	治癒
unknown	不明

### MEDIS標準病名マスター(病名管理コード)

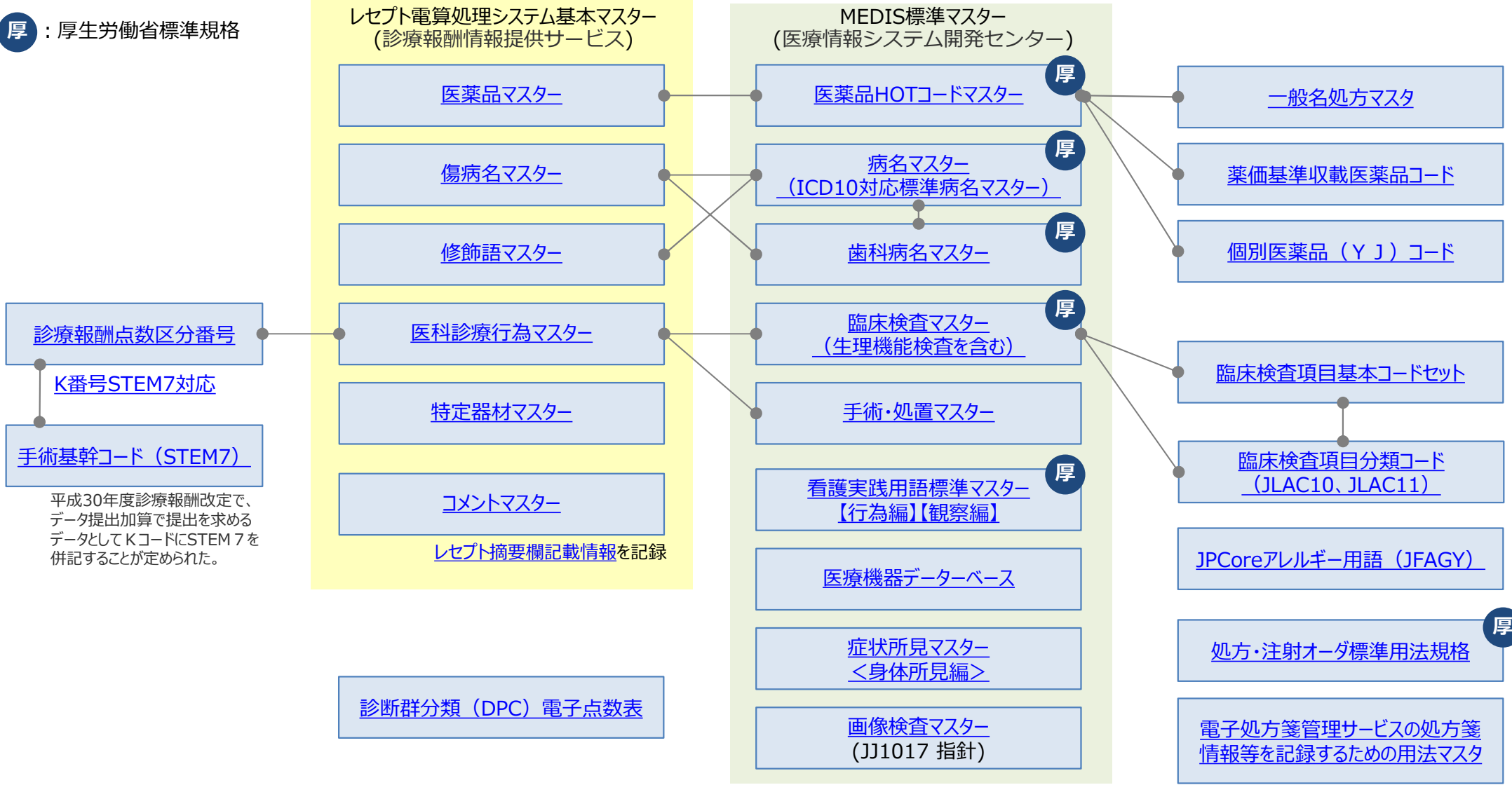
病名管理コード	病名表記
20051158	インフルエンザ
20095995	インフルエンザ (H1N1) 2009
20100272	インフルエンザ (H5N1)
20085909	インフルエンザA型
20085907	インフルエンザAソ連型
20085911	インフルエンザA香港型
20085913	インフルエンザB型
20051159	インフルエンザ気管支炎
20101862	インフルエンザ菌b型感染症
...	... (計約27,000コード)

国内の主要なコード規格を次のページに整理。

# 参考. 国内の主要な医科関連のコード規格

厚生労働省指定した標準規格や、業界標準となっているコードマスタ等を以下に列挙。標準型電子カルテでは、これらの規格を優先的に採用することを想定。

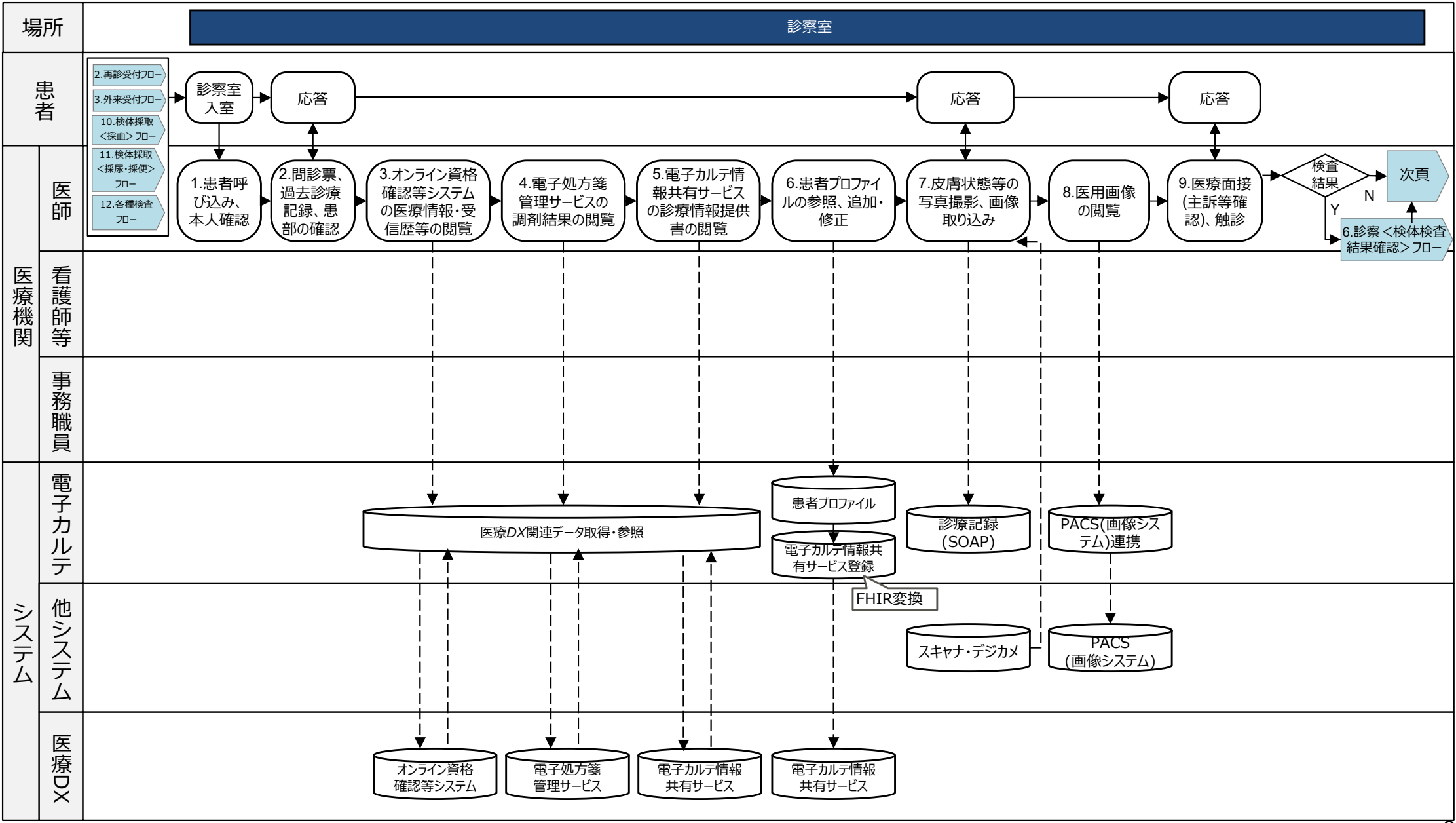
**厚** : 厚生労働省標準規格





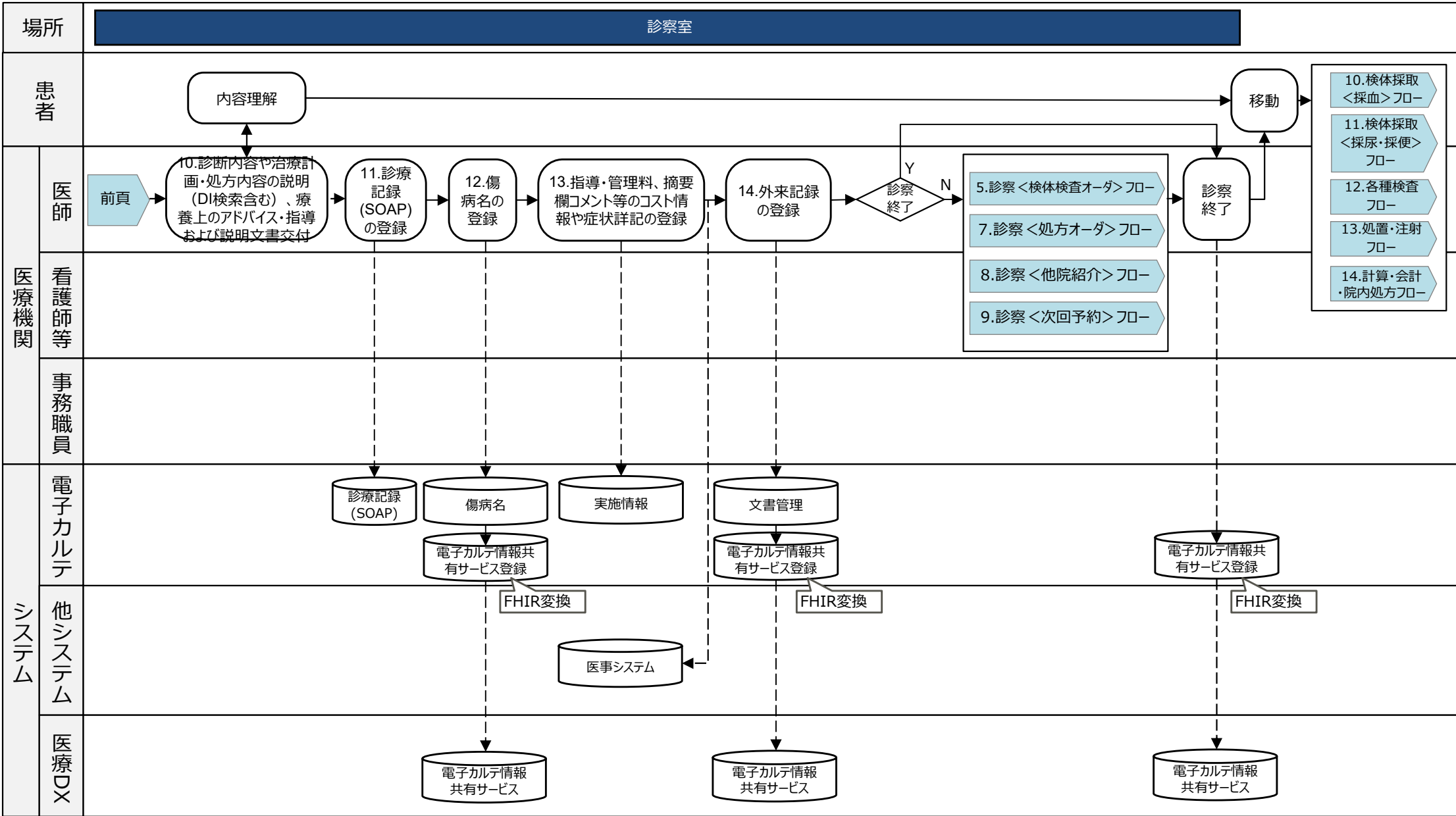
# 参考. 標準型電子カルテα版の想定業務フロー(抜粋) 1/2

医科診療所における標準型電子カルテα版を利用した想定業務フロー(診察室業務抜粋 ※詳細は別紙)は以下の通り。



# 参考. 標準型電子カルテa版の想定業務フロー(抜粋) 2/2

医科診療所における標準型電子カルテa版を利用した想定業務フロー(診察室業務抜粋 ※詳細は別紙)は以下の通り。



# 参考. 医療DX取得情報(6情報等)の参照・活用例

サンプルイメージとして、医療DXのサービス(システム)群から取得できた情報を問診票記録(プロフィール等)に簡単に引用できたり、変換等をすることなくそのままのコード情報で、標準型電子カルテのDBに保存すること等が考えられる。

厚労 太郎

 コウロウ タロウ  
 男性 33歳02か月
 
感染症 : あり
患者ID : XXXXXXXXXXXX
患者ID検索

診療記録
患者プロフィール
検査オーダー
処方オーダー
文書作成

### 初診時間診票

マイナ保険証による診療情報取得に同意したか	同意済み
他の医療機関からの紹介状を持っているか	-
本日受診した症状について	-
現在、他の医療機関に通院しているか	-
現在、処方されている薬があるか	-
これまでに大きな病気にかかったことがあるか(入院や手術を要する病気等)	2型糖尿病・糖尿病性合併症あり
この1年間で健診(特定健診及び高齢者健診に限る)を受診したか	-
これまでに薬や食品などでアレルギーを起こしたことがあるか	麦類_小麦
現在、妊娠中又は授乳中であるか(女性のみ)	-

医療DX取得情報

▼ 健診情報

▼ 診療/薬剤情報

・20XX年4月分

▼ 処方・調剤情報

▼ 傷病名

・2型糖尿病・糖尿病性合併症あり  
20085425

▼ 感染症情報

・ヒト免疫不全ウイルス(HIV)  
5F500-1430-023-117-05

▼ アレルギー情報

・麦類\_小麦 J7F6912130

▼ 薬剤禁忌情報

▼ 検査情報(救急・生活習慣病)

初診時のタイミングから予め感染症情報の有無を確認可能

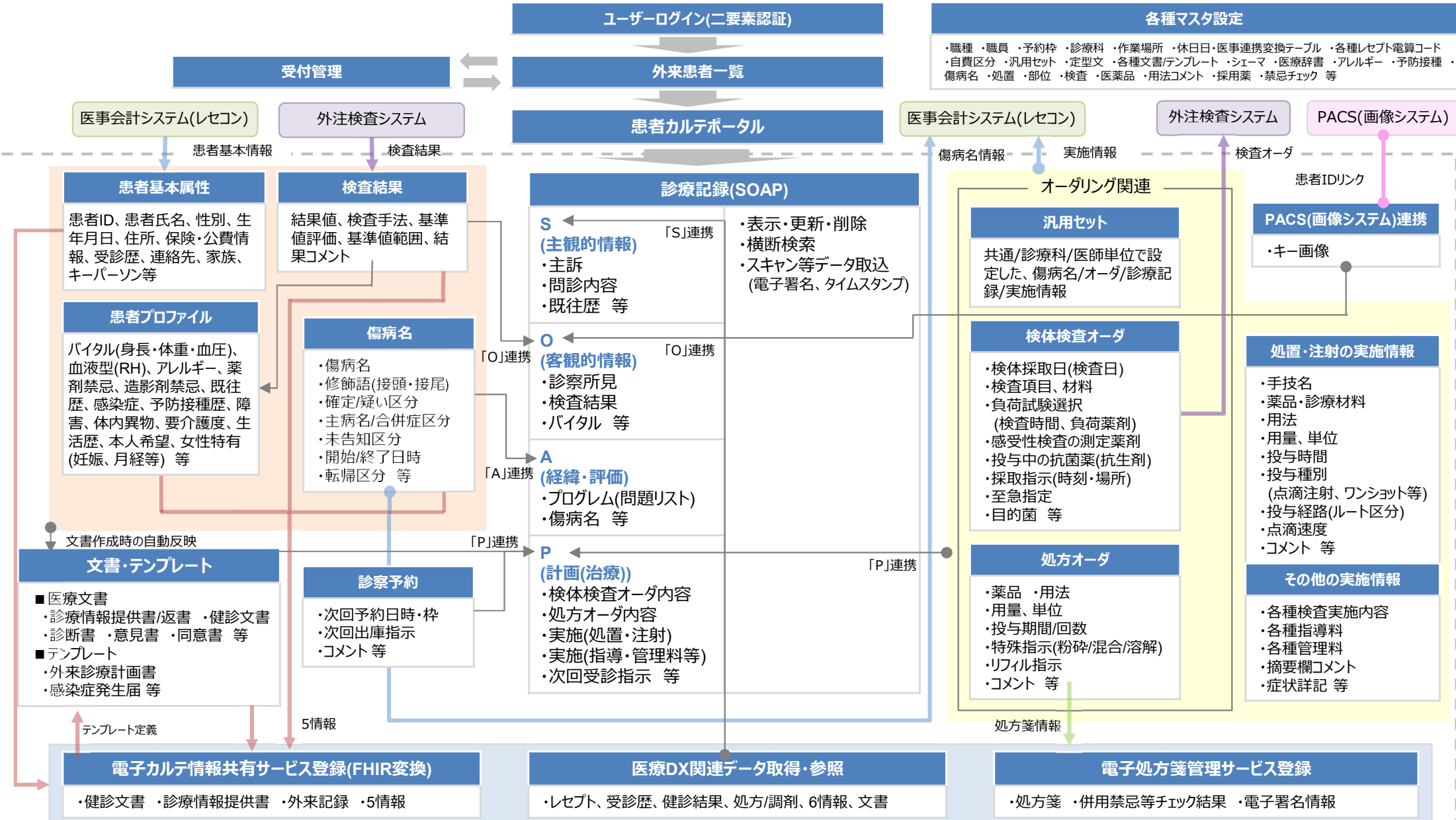
ドラッグ&ドロップで簡単に引用可能

標準型電子カルテシステムのDBにそのまま保存可能

Image

# 参考. 標準型電子カルテα版の実装スコープ案

前述の方針と想定業務をふまえ、標準型電子カルテα版の実装スコープ案として、以下のイメージを想定。



# アンケート

## 標準型電子カルテに関するアンケートのお願い

前ページまでの資料をもとに、標準型電子カルテに関するアンケートのご記入をお願いいたします。

1	医療DXを加味した業務フローを要件定義として整理しましたが、他に医療DXの活用ポイントはありますか。 (資料8～9頁)
2	医療DXと関連する機能が最小限である前提の上、機能群(資料11頁)に過不足はありませんでしょうか。
3	全国医療情報プラットフォームから取得できる6情報等を個人ごとに統合し、参照・活用できるプロフィール画面の工夫ポイントとしてどのようなアイデアがありますでしょうか。(資料10頁)
4	標準型電子カルテでは、厚労省標準や業界標準等の標準規格に基づいた民間との外部接続I/FをAPIとして開発しようと考えておりますが、それに対するご助言等がございますでしょうか。(資料4～11頁)
5	診療報酬改定時におけるレセコン側の改修負担とは別に、電子カルテ側の改修負荷としてはどこまで影響を及ぼしておりますでしょうか。